

# 「角館野菜」ブランド化へ！～角館町下延地域の挑戦～

令和6年度新規採択希望

農地中間管理機構関連ほ場整備事業

おおせぞうの  
大瀬蔵野地区【仙北市】

## 位置図



地区概要		
受益面積	関係農家	総事業費
44.0ha	99戸	14.3億
整備計画	現況10～20a → 計画1ha	
組織経営	個人経営	その他
44.0ha	0.0ha	0.0ha
法人計画	現況1法人 → 計画3法人	

## ブランド化への取組



各法人で作付けする品目を対象として  
県内有数の観光地である仙北市内での  
生産物の利用を拡大し、「角館野菜」  
としてブランド化！

## 角館野菜



ブランド定着に向けて

## 現在の地域の営農状況



通算100回以上の開催を誇る  
地域独自の品評会を開催し、  
栽培技術の向上に努めている。

古くから高収益作物に取り組み、  
技術向上に努めてきたため、  
ブランド化に取り組める下地がある！



系統出荷だけではなく、近隣のスーパーや給食  
センターにも出荷している。  
また、生産者グループを組んで、独自のシールを  
作り差別化を図る取組を行っている。



## 【県との連携】

- 「未来へつなぐ元気な農山村創造事業」を活用
  - ・地域資源を生かした地域活性化を目指すプランを策定
  - ・地域特産物のブランド化や観光等の他分野との組み合わせによる新たなビジネス創出等に必要の取組を支援。

## 【仙北市との連携】

- ホテルや農家民宿の利用に係る統計調査、アフターコロナに向けた観光分野施策の方向性確認、観光イベントの開催等を実施している。仙北市と連携してイベントやレストラン等への食材提供を行い、販売先の定着を図るほか、観光客への地場産野菜のPRに繋げる。



## 【ほ場整備とブランド化に向けた事業のスケジュール】

項目	R5	R6	R7	R8
未来へつなぐ元気な農山村創造事業	協議会設立	プラン策定	ブランド化支援	
農地中間管理機構関連ほ場整備事業		地区採択	面工事	

## 【角館野菜ブランド】

- 仙北市角館町やその周辺で栽培される野菜を想定。
- 「角館」という知名度を生かしたブランド化を図り、地域の特産品としての生産額向上や観光地の目玉として期待。
- まずは地区内で栽培され、事業を契機に拡大する「トマト、えだまめ、ねぎ、さといも」を角館ブランドとして展開。
- 将来的には周辺地域を含め、生産品目の拡大や生産量の向上を図っていく。

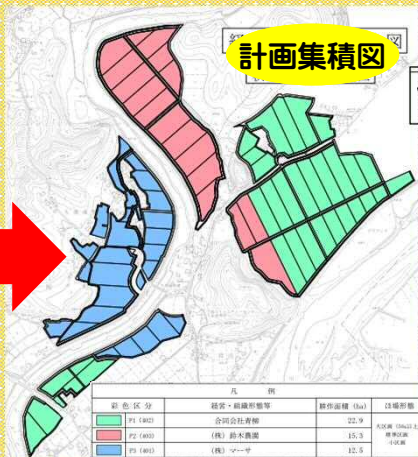
## 営農計画

既設1法人+新設2法人に農地を全て集積！

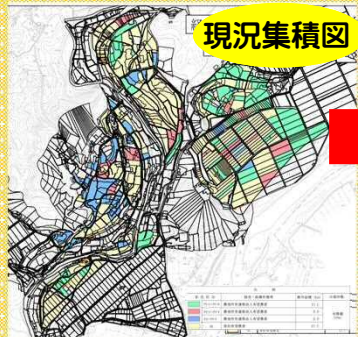
3法人の特色を活かした営農！

事業を契機にえだまめやねぎに取り組み  
生産額約1.5倍！

## 計画集積図



## 現況集積図



## 【株】マーサ

主たる品目：水稲、トマト

高糖度のトマトを栽培。県の6次産業化の取組であるアグリヴィーナスの会員が従事しており、トマトの加工品を製造、販売している。



## 【合】鈴木農園

主たる品目：えだまめ

えだまめに特化した栽培を行っており、事業を契機に色彩選別機を導入して効率化を図り、栽培面積を拡大する。えだまめの加工にも挑戦する。



## 【合】青柳農園

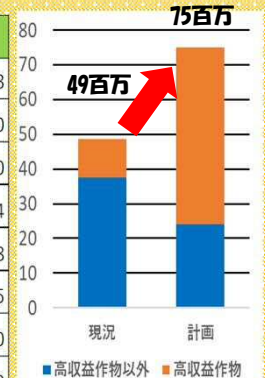
主たる品目：水稲、ねぎ、さといも

現在、スーパーの【株】タカヤナギへ出荷している。また、市給食センターにも出荷しており、これらの販路を活用し、高収益作物の生産拡大を図る。



## ●栽培品目

品目	現況	計画
水稲	34.4	21.3
飼料用米	3.5	5.0
ねぎ	0.4	1.0
さといも	0.3	0.4
えだまめ	4.0	13.8
トマト	0.2	0.5
大豆	5.0	2.0
計	47.8	44.0





# 営農構想 実現のポイント

## ○地域での話し合いによる合意形成

- ・ 地域の特色や強みなどの把握
- ・ 後継者の確保・育成
- ・ 地域資源を活用した新しいことへのチャレンジ

## ○関係機関との横断的な連携

- ・ 部局を跨ぐ情報共有と連携体制の構築
- ・ 地区と他地域を結ぶネットワーク化
- ・ 農山村振興施策を支援する事業の有効活用